

# 電気自動車(EV)充電用 コンセントと WeChargeの 導入事例ご紹介

2023年10月9日  
コスモ麻布十番管理組合  
小松崎 潤

## 事例紹介【およそ20分】

- 実体験で感じた「これが重要 or マスト(小さなことも含む)」
- 導入先マンションの概要
- 導入までの全体タイムライン
- 「これが重要 or マスト(小さなことも含む)」個別のご説明
- まとめ

## Q&A【およそ10分】

- どうぞお気軽にご質問ください

## 事例紹介【およそ20分】

- 実体験で感じた「これが重要 or マスト(小さなことも含む)」
- 導入先マンションの概要
- 導入までの全体タイムライン
- 「これが重要 or マスト(小さなことも含む)」個別のご説明
- まとめ

## Q&A【およそ10分】

- どうぞお気軽にご質問ください

## 最初に結論 | これが重要 or マスト(小さなことも含む)

---

導入を思いついてから運用が始まるまでの一連の流れを経験してみて、  
「ここが重要だった」「これはマストだった」と自分が感じた点は、こんなものでした

- 重要ポイントは99%、合意形成にあり
- 「EVに乗っていないEV理解者」を増やす
- 「充電設備を入れたい」とは言わない
- スケジュールの軸になるのは補助金

# 導入先マンションの概要

港区内の築20年ちょっとの分譲マンション。区分所有者のうち、およそ半分は外部居住者。  
駐車場は平置き5区画、全区画に充電用200Vコンセント + WeChargeを導入



**マンション理事長インタビュー**  
全区画設置の合意形成は「徹底した受益者負担」が重要!  
コスモ麻布十番 (東京都)

**【マンション理事長インタビュー】全区画設置の合意形成は「徹底した受益者負担」が重要! コスモ麻布十番(東京都)**

♡ 13

WeCharge [ウィーチャージ] powered by ユビ電  
2023年3月19日 17:02

導入経緯は、noteでも詳しく記事になっています  
<https://note.com/wecharge/n/n5457696c7188>

- 物件名：コスモ麻布十番
- 種類：分譲マンション
- 築年月：2000年1月
- 場所：東京都港区
- 駐車場：全5区画
- 充電設備設置区画：全5区画（全区画設置）
- 充電設備種類：EV充電コンセント（200V）
- 導入費用：約234万円（うち経産省補助金203万円）

# 導入までの全体タイムライン

導入までに、約9ヵ月。2022年2月に最初のアクション、同年11月末に工事完了・運用を開始。翌年2月に補助金の支払を受けました。**なかでも重要なのは、合意形成のフェーズ**



## 繰り返します | これが重要 or マスト(小さなことも含む)

---

導入を思いついてから運用が始まるまでの一連の流れを経験してみて、  
「ここが重要だった」「これはマストだった」と自分が感じた点は、こんなものでした

- 重要ポイントは99%、合意形成にあり
- 「EVに乗っていないEV理解者」を増やす
- 「充電設備を入れたい」とは言わない
- スケジュールの軸になるのは補助金

## 重要ポイントは99%、合意形成にあり

---

「EV充電コストを負担するのは、EV充電をする人だけ」を実現する技術は、すでにある。  
重要なのは、「EV充電をしない人」の「今、導入すべき理由・背景」への納得感

- 納得感のある合意形成のための大前提は、「EVに乗っていない人は、EV充電のことをまったく知らない」という、ごく当たり前の事実を常に意識すること。
- この前提に立ち、「EV充電コストを負担するのは、EV充電をする人だけ」という**受益者負担の原則の徹底**が必要になる。
- 受益者負担の原則をEV充電設備導入に反映させるには「**共用部の電気代とEV充電に使われた電気代を切り分けること**」がマスト。
- （良い悪いとは関係なく）社会のEVシフトは避けられないため、**近い将来、EV充電設備は「集合住宅の駐車場なら当然あるもの」と認知される**ようになる。
- 一方で、EV充電設備の設置が進めば、設置を後押しするための補助金はだんだんと不要になっていき、自前の設置費用負担は重くなる。だったら、**補助金が手厚く出る今のうちに設置するのが、マンション全体の経済合理性にかなう**——との機運が高まるとよい。



## 「EVに乗っていないEV理解者」を増やす

---

「個人的利益のためだけにEV充電設備を導入しようとしている」と思われないうために、合意形成プロセスで「EVに乗っていないEV理解者」を一人でも多く増やしましょう

- 大事なことなので繰り返すと、**EVに乗っていない人は、EV充電のことをまったく知らない。**
- だから、EV充電のことよりも前に、EVの特徴やエンジン車との違い/共通点、エネルギー補給の仕方など、**「そもそもEVを所有・運用するということは、具体的にどういうことか？」**を、EVに乗っていない人に丁寧に説明し、理解してもらうことが重要。
- こうした過程の中で、**「自分はEVに乗っていないし、今のところ乗る予定もないが、導入メリットは確かにある」とのポジティブな意見を口に出して表明してくれる理解者**を増やすのがよい。
- もし、導入したい場所が分譲マンションで、自分が区分所有者であれば、**自分が管理組合の理事になって汗をかくと話が早い。**「自分がこの導入プロジェクトのマネージャーなんだ」という当事者意識を持てば、必ず導入できます！

## 「充電設備を入れたい」とは言わない

---

「充電設備を入れたい」と言ってしまうと、「多額の費用がかかりそう」との誤解が生じる。  
「コンセントをつけたい」という、大げさ感のない言い方を説明の中で貫きましょう

- 大事なことなので何度も繰り返すと、**EVに乗っていない人は、EV充電のことをまったく知らない。**
- **EVに乗っていない人が「EV充電設備」と聞くと、直感的にイメージするのは急速充電設備。**「多額の費用をかけ、なにやら大変な工事の末に完成し、維持費も高額となる設備を導入する」ように誤解してしまう。
- こうした誤解を生まないため、「**コンセントをつけたい**」という言い方を、あらゆる説明の場で貫くのがよい。
- EV充電用の200Vコンセントは**家庭用エアコンのコンセントと同じ**。200Vコンセント自体はAmazonなどで安価に買え、故障の可能性や維持費も限りなくゼロ。
- **200Vコンセントと「共用部の電気代とEV充電に使われた電気代の切り分けができるサービス＝WeCharge」をセットで提示**すると、（初期導入コストはともかく）維持・運用コストについては心配いらない、という理解につながる。

## スケジュールの軸になるのは補助金

EV充電設備の設置に関する行政の補助金は、毎年度初めに制度概要が発表されている。補助金額がはっきりしてから導入決議をする順序を組み、導入是非の論点を絞りましょう

- 200VコンセントとWeChargeをセットで導入する提案とすると維持・運用コストの問題は解決するため、**残る論点は「EVに乗っていない人が、なぜ、EV充電設備の初期導入コストの一部を負担するのか」だけ**になる。
- そこで、手厚い補助金があることを説明しつつ、**「補助金を利用できなければ導入しない」とのスタンス**を示し、コスト負担への不安の声に応える。
- このスタンスを守ったうえで**「補助金を抜いた自前負担金額＝実質の初期導入コスト」**と整理し、この金額を許容できるかどうか、さらに論点を絞っていく。
- このように論点が絞られた導入決議とするためには、**補助金の金額がはっきりしてから（＝採択されてから）導入決議をする**スケジュールとするとよい。
- こうするために重要なことは2つ。**①補助金の申請受付開始後なるべく早く申請できるよう準備**を予め進めておくことと、**②申請から採択までの日数を読み、採択から日を置かず導入決議**を行えるスケジュールを組み立てること。

## まとめ | これが重要 or マスト(小さなことも含む)

---

- 重要ポイントは99%、合意形成にあり
- 「EVに乗っていないEV理解者」を増やす
- 「充電設備を入れたい」とは言わない
- スケジュールの軸になるのは補助金



**受益者負担の原則に沿ったEV充電が実現。  
往復500kmを超える遠出以外は自宅充電だけで充分**

ご清聴ありがとうございました。事例の紹介を終わります

---

## 事例紹介【およそ20分】

- 実体験で感じた「これが重要 or マスト(小さなことも含む)」
- 導入先マンションの概要
- 導入までの全体タイムライン
- 「これが重要 or マスト(小さなことも含む)」個別のご説明
- まとめ

## Q&A【およそ10分】

- どうぞお気軽にご質問ください